

にちげんによぞうりゆうしやかぶつくようじ
日眼女造立釈迦仏供養事

御書新版
御書全集

1610 4行目〜5行目
1187 6行目〜8行目

譬^{たと}えば、頭^{こうべ}を振^振ればかみ^髪ゆる^揺る^るぐ。

心^{こころ}は働^働いたらけ^けば身^みうご^動く。大風^{おおかぜ}吹^ふけ

ば草^{そう}木^{もく}しず^静かならず。大^{だい}地^ちうご

け^けば大^{たい}海^{かい}さわ^騒がし。教^{きょう}主^{しゅ}釈^{しゃく}尊^{そん}を

う^うご^ごかし奉^{たてまつ}れば、ゆる^{ゆる}がぬ^ぬ草^{そう}木^{もく}

やある^{ある}べき、さ^さわ^わがぬ^ぬ水^{みず}やある

べき。

通解

たとえば、頭^{あたま}を振^ふれば、髪^{かみ}が揺^ゆれる。心^{こころ}が働^{はたら}けば、身^{しん}体^{たい}が動^{うご}く。大風^{おおかぜ}が吹^ふけば、草^{そう}木^{もく}も揺^ゆれる。大^{だい}地^ちが動^{うご}けば、大^{たい}海^{かい}も荒^あれる。同^{おな}じよう^{よう}に、教^{きょう}主^{しゅ}釈^{しゃく}尊^{そん}（御^ご本^{ほん}尊^{そん}）を動^{うご}かせば、揺^ゆる^るが^がない^{ない}草^{そう}木^{もく}が^がある^{ある}だ^だらう^{らう}か、騒^{さわ}が^がない^{ない}水^{みず}が^がある^{ある}だ^だらう^{らう}か。